

次代につなぐ技とひと

文化財修復

NEW LIFE FOR TIMELESS ART 2026

永遠に 2026

HIGHLIGHTS FROM THE CULTURAL PROPERTY MAINTENANCE AND RESTORATION GRANT PROGRAM SUPPORTED BY THE SUMITOMO FOUNDATION

PEOPLE AND TECHNIQUES BUILDING BRIDGES TO THE FUTURE

泉屋博古館

M H S
U A E
S K N
E U K O
M O K U
K A N

4/4 土 sat - 6/28 日 sun

【期】4/4(土)-5/6(木) 【期】5/9(土)-5/31(日) 【期】6/2(土)-6/28(日)

【開館時間】10:00-17:00 ※入館は16:30まで

【休館日】月曜日、4/24(金)、5/7(木)、5/8(金)、5/14(月・祝)開館

【入館料】一般1,200円(1,000円)、学生800円(700円)、18歳以下無料

・学生・18歳以下のかたは証明書をご提示ください。・本展覧会の入館料でブロンズギャラリーもご覧いただけます。・20名様以上は「」の団体料金。・障がい者手帳等ご提示のかたはご本人および同伴者1名まで無料。・お尋なセトボウを割引料金で販売します。詳しくはHPで

【主催】公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人住友財団、日本経済新聞社、京都新聞
【協力】一般社団法人酒生修理装潢舗

上:重要文化財「能竹本三十六歌仙絵切「源信物」」(修復風景)泉屋博古館蔵(1990年)
下:海北友雪筆「綿糸院本堂襷脇面(襷前図)」(修復風景)綿糸院蔵(場面替あり)

住友財団文化財維持・修復事業助成の成果展示

特別展

文化財よ、永遠に 2026 一次代につなぐ技とひと 住友財団文化財維持・修復事業助成の成果展示

会期 2026年4月4日(土)～6月28日(日)

I期: 4月4日(土)～5月6日(水) II期: 5月9日(土)～5月31日(日) III期: 6月2日(火)～6月28日(日)

会 場 泉屋博古館 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24

休 館 日 月曜日(5月4日は開館)、4月24日(金)、5月7日(木)

開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)

開催概要

先人たちの文化や思想を伝える考古遺物や歴史資料、美術工芸品、それらを今日私たちが目の当たりにできるのは、これまでに多くの人々の手によって守り継がれてきたからにはほかなりません。それはすなわち、目の前の文化財が次の百年へと息をつなぐことができるかどうかは今の私たちに懸かっていると言い換えることができるでしょう。

住友財団は、1991年創立以来、人類共通の宝である文化財を後世に伝えることを現代人の責務と考え、文化財維持修復事業の助成に務めてきました。民間という立場から、我が国だけでなく海外の文化財にまで助成対象を広げて、35年間活動を重ねてきました。

本展は、住友財団の助成事業によって修理がなされ、よみがえった文化財を展示することで、文化財の保存修理を取り巻く環境と技術、そして人に光をあてようとするものです。社会の高齢化と地方の過疎、それに伴う文化財に携わる担い手の不足、逼迫する財政そして災害の激甚化と、文化財はいよいよ厳しい境遇に置かれています。何人の人が一つの作品のために連携して、厳選した材料を惜しみなく投入し、伝統と最新を兼ね備えた技術で最善を模索し続ける文化財修理というものが、はたして大量消費を前提としてコストパフォーマンスを重視する現代社会でどのように生き残っていけるのか。山積する課題を前に困惑して停止してしまわいためにも、文化財修理の意義と技術、さらにそこに注ぎ込まれた人々の努力を、改めてお伝えできれば幸いです。

※ 休館日・開館時間および展示内容を変更する場合がございます。当館のwebサイト、SNS等で最新の情報をご確認ください。

展示のみどころ

- 修理が完了した文化財が持つ価値や魅力を紹介 **ものへの光**
- 修理に必要な技術や材料、道具を紹介 **わざへの光**
- 修理に携わった人々の努力を紹介 **ひとへの光**

そもそも、文化財修理とは

長い歴史の中で継承されてきた文化財。それを次代につなぎとめるためには、適切に修理を行うことが肝要です。現在残されている文化財も、過去の人々によって修理がなされたからこそ、今、目の前にすることができていると言えるでしょう。

現代の文化財修理で目指すのは、文化財の現状を尊重することです。すなわち制作された当時の姿を想像して勝手に補ったり、色を変更したりはしません。それは「復元」と呼ばれる手法で、文化財修理とは区別されます。文化財修理が重視するのは、あくまで現在残されているオリジナル部分の保全です。

本展は、修理という視点から文化財を見つめ直す場とし、作品に宿る魅力とそれを守る意義を感じていただく機会にいたします。

一見すると、どこが修理されたのかわからない？

修理前



修理後



いやいや、そんなことはありません！

これこそが現状を尊重した修理で、ここで駆使された纖細緻密な技の数々を展示室ではご紹介します

重要文化財 徐九方筆 絹本着色 水月観音像 高麗・忠肅王 10年（1323） 泉屋博古館（II期）

住友財団の文化財維持・修復事業助成について

住友財団は、基礎科学、環境、芸術・文化、国際交流等様々な分野において、人類社会の直面する諸問題の解決・改善を目的とする研究及び事業に対し、国際的な視野をもって、時代の要請に適った助成を行い、もって人類の豊かな社会建設に資することを目的として、1991年に住友グループ20社の基金拠出を受けて設立されました。

財団の助成事業のなかでも、文化財維持・修復事業助成は大きな柱の一つとして、財団設立以来これまでに国内、海外合わせて累計で1,400件を超える助成を行ってきました。文化財を保存して、次の世代に継承していくことは、今の世代の責務と考えられますが、わが国において文化財の維持・修復に充てられる費用は十分とは言い難い状況にあり、財団はその一助となるべく助成を継続しています。

また、財団では修復を終えた文化財の公開も重視し、2019年以降、展覧会の開催や公開活動助成を行っています。このたびの展覧会は、創立35周年の節目として、規模を拡大して開催されるものです。

1

ものへの光

現在にまで残る作品の裏には必ず、それを残そうと奮闘した懸命な人々がいます。その人々を駆り立てたのは、やはり作品そのものが持つ力や美しさでしょう。

本展では、作品の魅力を文化財修理の出発点として位置付けて、作品たちの美しくよみがえった姿をお楽しみいただきます。

修理後



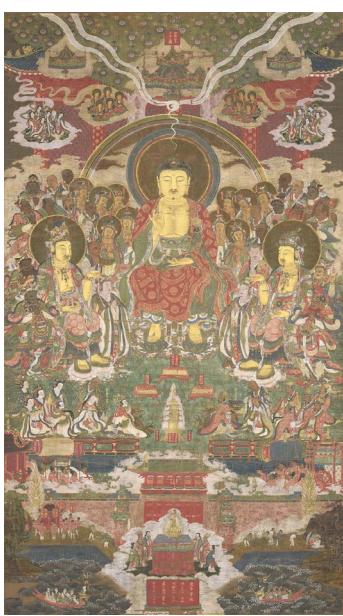
繡子地刺繡 仏涅槃図 江戸・元禄4年(1691) 三寶寺(Ⅰ期)



なんと涅槃にはいったお釈迦様は取り外せる仕組みです。
もちろん今回の修理でも、そこは変えずに取り外しができる形でなおされました。
他に例を見ない巨大な刺繡涅槃図を、お見逃しなく。

修理後、初公開！

修理後



重要文化財 絹本著色 弥勒下生変相図
高麗・忠烈王20年(1294) 妙満寺(Ⅱ期)

高麗仏画のきらびやかな色彩世界に、思わず息を呑みます。幕末の修理銘が残る、古くから海を渡った日本で大切に守り抜かれてきた絵画です。

鮮やかな発色の秘訣も、今回の修理で明らかに！！

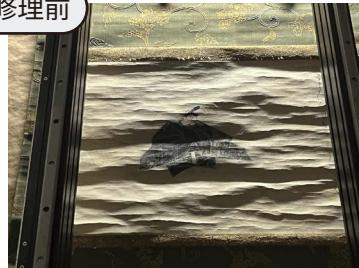
修理後



重要文化財 紙本著色 佐竹本三十六歌仙切「源信明」
鎌倉時代13世紀 泉屋博古館(Ⅰ期)

最古級の歌仙絵として古来珍重され、ことに大正期に絵巻から分割され各家蔵となり掛軸に改められたことで有名になった「佐竹本」。もともと横方向に巻く巻物を、縦方向に巻く掛軸に改めることによる弊害が、切断から100年を経て目立ち始め、修理に入りました。

修理前



画面がたわみ、横方向の折れが無数に入っていた。

修理中



修理では表装をはずし、何層も裏面にあてられた裏打紙を除去し、新たな裏打紙をあてなおす。

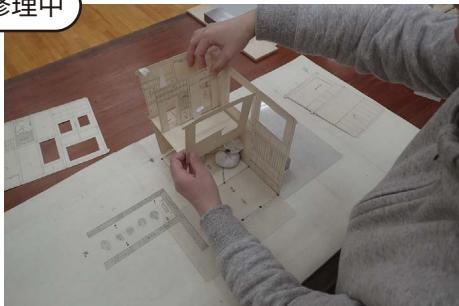
茶人垂涎の茶室起こし絵図

修理後

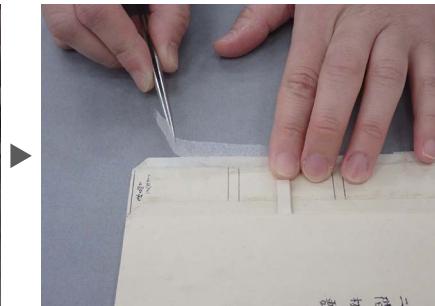


重要文化財 大工頭中井家関係資料から起こし絵図
高台寺時雨亭建地割 江戸時代 18世紀 個人蔵 (II期)

修理中



仮り組みで各部材が貼り付けられた位置を入念に確認。
わずかなズレが折れにつながり、弱らせてしまう。



弱っている場所を見極め、
補強紙を貼り付けていく。



組み立て最終確認。

修理後



重要文化財 木造阿弥陀如来坐像
平安・大治5年(1130) 泉屋博古館(通期)

像内部の銘文から制作年が 1130 年だと判明しており、院政期仏像の基準作となっている阿弥陀像です。しかし、彩色の浮き、銘文が記されている背板と体部分との接合のゆるみ、その上、大正時代に修理された箇所の損傷も激しく、展示はおろか移動すらままならない状況になりつつありました。そこで、住友財団の文化財維持修復事業の助成を受けて修理に踏み切ることになりました。

修理前



修理後

広がるすき間。見た目
もさりながら、更なる
損傷につながりかねない。
修理では檜材を
差し入れた。



地上にあるものばかりが文化財とは限らない!!
地中から出土した、
いわゆる考古資料の修理保存法もご紹介



修理後

重要美術品 持田古墳群出土馬具類
古墳時代後期 天理参考館(通期)

文化財と一口に言っても、形式も素材もさまざま。

本展では、絵画・書跡の修理 / 古文書・歴史資料の修理 / 彫刻の修理 / 考古資料・工芸品の修理 と 4 つに分けてご紹介します。

さらにいえば、たとえ素材が同じでも、作品が抱える「症状」は作品一点ごとに異なります。作品の「声なき声」を丹念に聞き取り、その「症状」にあわせて繊細緻密な修理技術が注ぎ込まれる修理現場の最前線をご紹介します。

平面図に貼り合わされた立面図や内部の展開図を記した厚紙を立ち上げていくと、まるで和紙でできたような「建築模型」のよう。しかし、起こす、折りたたむという機能はそのままに、よみがえらせる修理とは、いったい?
他に例を見ない挑戦がはじまりました。

ひとへの光

ひとつの文化財を修理するためには、所有者はもちろん、調査によって文化財の価値を見出す研究者、修理まで導く文化財保護を専門とする行政機関の人たち、さらに実際に修理を行う技師まで様々な人々の連携が必要です。本展では、そうした文化財の裏に隠された人々の努力にもスポットを当てます。

襖絵を守ろうと奔走した住職によって修理に至った雲龍図

修理後



海北友雪筆 麟祥院本堂障壁画「雲龍図」 江戸時代 17世紀 麟祥院（場面替えあり）

禅宗寺院の方丈で最も格式の高い室中を飾り、麟祥院の歴史を見守ってきた本作。気迫を込めてこれを描いた海北友雪は、麟祥院を開基した春日局によって徳川家光に紹介され、出世の道が開けた画家です。

お互いの得意を見事に生かしたコラボレーション 装潢修理技術 × 漆工修理技術

奈良国立博物館の敷地には、国宝・重要文化財をはじめ貴重な文化財を修理するための文化財保存修理所が存在します。多様なジャンルの文化財修理に対応するため、彫刻、装潢（絵画・書跡）、漆工の修理工房が壁一枚を隔てて日々活動しています。「お隣り」の近さを生かして、素材のジャンルをまたぐような文化財の修理にも連携して挑んでいます。本作はその連携によって修理がなされた作品です。



修理後

京都府指定文化財 木造彩色宝珠台
鎌倉～南北朝時代 14世紀 海住山寺（一期）

修理中の新発見！もご紹介



修理後

重要文化財 木造十一面觀音立像
鎌倉・文永5年(1268) 乙訓寺(II・III期)



修理中

仏像の修理では、いったん一つ一つの部材単位まで丁寧に分けてゆがみを是正し、安定した状態になるように緻密に組み立て直す解体修理がしばしば行われます。本像の場合、なんと像の中から大量の古文書が見つかりました！本像が造られた経緯が記された貴重な古文書も発見され、制作年の確定などにつながりました。

基本情報

展覧会名 特別展 文化財よ、永遠に 2026 一次代につなぐ技とひと
住友財団文化財維持・修復事業助成の成果展示

会 期 2026年4月4日（土）～6月28日（日）
I期 4月4日（土）～5月6日（水）/II期 5月9日（土）～5月31日（日）/III期 6月2日（火）～6月28日（日）

会 場 泉屋博古館 〒606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
TEL 075-771-6411（代表） HP https://sen-oku.or.jp/program/202604_newlifefortimelessart/

休 館 日 月曜日（5月4日は開館）、4月24日（金）、5月7日（木）、5月8日（金）

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

料 金 一般 1,200円（1,000円）/学生 800円（700円）/18歳以下無料
※学生・18歳以下のかたは証明書をご呈示ください
※20名以上の団体は（ ）内の割引料金
※障がい者手帳等を呈示のかたはご本人と同伴者1名まで無料

主 催 公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人住友財団、日本経済新聞社、京都新聞

協 力 一般社団法人国宝修理装潢師連盟

後 援 京都市、京都市教育委員会、京都市内博物館施設連絡協議会、NHK京都放送局

交通アクセス 京都市バス：JR・新幹線・近鉄電車「京都駅」/京阪電車「三条駅」から5系統
阪急電車「烏丸駅」から32、203系統
地下鉄烏丸線「丸太町駅」から93、204系統
5、93、203、204系統：「東天王町」下車、東へ200メートル
32系統：「宮ノ前町」下車すぐ
地下鉄：東西線「蹴上駅」から徒歩約20分

問合せ先

泉屋博古館
京都府京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24
Tel: 075-771-6411 FAX: 075-771-6099
展覧会窓口：竹嶋 康平（学芸員） E-mail: k.takeshima@sen-oku.or.jp
実方 葉子（学芸部長） E-mail: sanekata@sen-oku.or.jp
坂井さおり（広報担当） E-mail: sakai@sen-oku.or.jp

開催中の催し

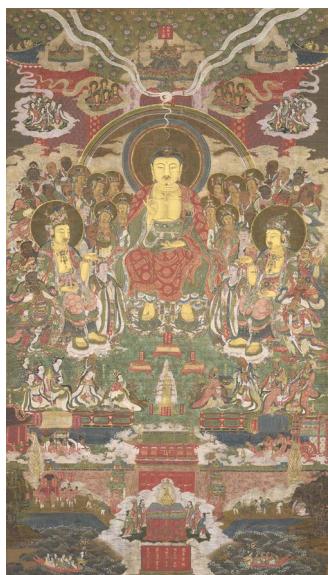
実際に修理をなされた技師の方々をお招きしてお話を聞く機会や、
文化財保護の第一線を日々走っていらっしゃる行政の専門技官の方々の講演会など、普段なかなか知ることのできない文化財修理の現場の声をお届けするプログラムを計画中です。
詳細は次の更新をお待ちください。



重要文化財「佐竹本三十六歌仙絵切 源信明」
鎌倉時代・13世紀 泉屋博古館（Ⅰ期）



京都府指定文化財 塩川文麟筆 報恩寺本堂障壁画「山水図」
江戸・天保7年(1836) 報恩寺（場面替えあり）



重要文化財「弥勒下生変相図」
高麗・忠烈王20年(1294) 妙満寺（Ⅱ期）



「繻子地刺繡 仏涅槃図」
江戸・元禄4年(1691) 三寶寺（Ⅰ期）



重要文化財 徐九方筆「水月觀音像」
高麗・忠肅王10年(1323) 泉屋博古館（Ⅱ期）



滋賀県指定文化財「薬師十二神将像」
南北朝時代・14世紀 新宮神社（Ⅲ期）



重要文化財「十一面觀音立像」
鎌倉・文永5年(1268) 乙訓寺（Ⅱ・Ⅲ期）



重要文化財「阿弥陀如來坐像」
平安・大治5年(1130) 泉屋博古館（通期）



海北友雪筆 麟祥院本堂障壁画「雲龍図」 江戸時代・17世紀 麟祥院（場面替えあり）